

道徳学習指導案

日 時 平成21年6月5日（金） 第1校時
対 象 2年5組（男子20名・女子20名）計40名
指導者 教 諭 鈴 木 克 幸

1 主題名 ユニット「友愛『信頼・友情』」

2 ユニット設定の理由

2年生になり、新しい学級になったことで、生徒は新たな環境や人間関係の中でこの1年を過ごすことになった。自己の個性の伸長を図るためには、自他の理解を深めるとともに望ましい人間関係を築くことで、学級における生徒の連帯感や所属感を高めることが大切である。7月16日に行われる球技大会に向けて、今、生徒たちは昼休み等を使って練習を行っている。この球技大会への取組を通して、生徒たちの学級における連帯感や所属感を高めさせるために、この時期に、友達を信頼し尊重し、真の友情を築こうとする態度を培うユニット「友愛」を設定した。また、特活の授業においても同じねらいの授業を行うことで、真の友情を築くことのすばらしさを実感させたい。

このような考えにたち、ユニットを設定した。

3 主題設定の理由

真の友情とは、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底になければならない。それは、相手の人間的な成長を願いながら、互いに励まし合ったり、高め合ったり、協力を惜しまないという関係である。しかし、ときには、自分が仲間はずれにされたり、傷ついたりすることを恐れるあまり、友達に安易に同調したり、友達と一定の距離を置いたりすることもある。したがって、「友情」という固い絆の信頼関係を築くことはそう容易なことではない。そのため、「真の友情」とは何か、「友達」とは何かを考えさせていくことが大切である。

中学生の時期は、交際範囲も広がり様々な人間関係の中で生活を送るようになる。また、親や教師に今まで多くのことをゆだねてきた児童期から独立し、自分の考えで行動しようとする発達段階にあり、親や教師よりも心を許し合える友達を求め、共に行動しようとする。しかし、他とかかわる機会や異年齢とともに体験することが減ってきているため、友情の大切さを実感できずに、友達を信頼できない生徒も多い。そのため、友達が困っていても積極的にかかわろうとしないこともある。そこで、生徒一人一人に友達を信頼することのすばらしさや喜びを実感させることによって、友達のよさを素直に受け入れようとする態度を身に付けさせることが大切である。

本学級の生徒は、明るく素直であり、一人一役や行事などの活動を通して、学級の全員と仲良く協力して取り組もうとする姿が見られる。しかし、自分の感情をおさえて、相手のよさを認め受け入れることができていない場面を見ることがある。

指導に当たっては、まず、生徒一人一人がどのような人間関係を築いているのかを振り返らせるとともに、友達がどのような考えや思いをもっているのかアンケート結果などから考えさせたい。次に、グループや学級全体で本音を語らせたり、意見を交換させたりすることによって、友達の内面的なよさに目を向けさせ、信頼を基盤として成立する友情が人間としての生き方の自覚を深める上で尊いものであることを実感させたい。また、ときには、感情や考え方の相違から人間関係に問題が生じて、互いの性格を尊重する視点から克服することによって、より一層深く強い友情が構築されることに気付かせ、よりよい価値観や新しい価値観を見出させたい。

このような考えに立ち、本主題を設定した。

4 学習指導要領との関連

本主題は学習指導要領の次の内容項目と関連が深い。

内容 2 主として他の人とのかかわりに関すること

(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。

5 本校教育目標との関連

本主題は本校教育目標の次の「めざす生徒像」と特に関連が深い。

- ・ ゆたかな心をはぐくむ生徒
- ・ 自分のよさを発揮する生徒

6 目標

心を許し合える友達をもつことのすばらしさに気付き、尊敬と信頼に支えられた友情をはぐくもうとする態度を育てる。

7 生徒の実態

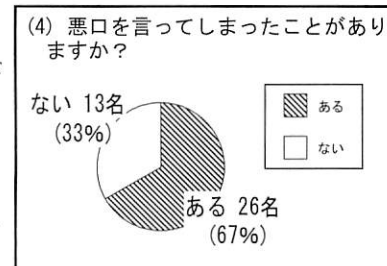
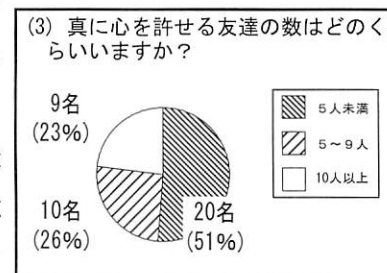
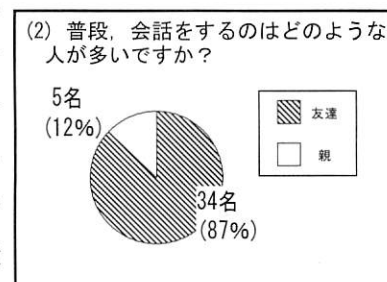
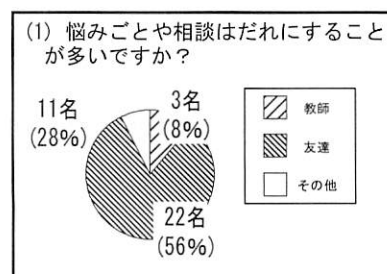
【アンケート結果】

実施日 平成21年4月28日（火）

対象 鹿大附属中学校 2年5組 男子20名・女子19名 計39名

新学年が始まって2か月、生徒たちは、係活動や一日遠足でのクラス対抗長縄跳び、学級設営コンクールなど、行事への取組を通して互いのよさを認めることや友達と仲良く協力することの大切さを実感することができており、クラスの絆も深まりつつある。アンケート結果からも、生徒全員が「友達っていいな」と思ったことがあると答えている。さらに、アンケート結果（1）では、「悩みごとや相談は親や教師にするよりも同じ年代の友達にする」と答えた生徒が約半数、アンケート結果（2）からは、「普段の会話は友達が中心である」と答えた生徒が大半を占め、友達に心を許す傾向があることが分かった。

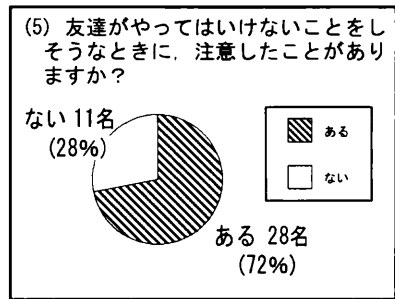
また、友達のよさに「困っていると助けてくれること」や「相談にのってくれること」「一緒に過ごしていて楽しいこと」などの意見が見られた。その一方で、アンケート結果（3）から、真に心を許せる友達の数があまり多くないことが分かった。その理由として、「信用して裏切られるのが嫌だから」「どこかに信用できないことがあるから」「相談ごとを他の人に話されることがあるから」など、自分が仲間はずれにされるのが嫌だったり、批判されることを恐れ、自分にとって都合のよい友達を求めたりする傾向があることも分かった。さらに、アンケート結果（4）、（5）より、これまでの友達と



の関係において、友達がやってはいけないことをしようとしたときに、注意できなかつたり、自分には友達を非難する気持ちは無くても、周りの雰囲気流され、友達の悪口を言ってしまった経験があると答えた生徒も見られた。他にも単に友達の意見に同調したり、その場しのぎの関係に終始したりすることも分かった。

このことから、友達の一人として接することができていても、心を許し合い、相互に信頼関係を築くまでには高まっていないことが生徒の実態として浮かび上がった。

そこで、本主題を通して、自分の友達との関係を振り返り、友達の内面的なよさに目を向けさせたい。また、相互に人として未熟な段階にあるので、相手の成長を心から願い励まし合い、忠告し合える信頼関係を築いていくことが真の友情につながることに気付かせ、自分の生き方に生かそうとする意欲や態度を育てたい。



8 指導計画（全4時間）

月	区分	資料名	時間	ね ら い
5月	道徳	「友達」(自作資料)	1 (本時)	心を許し合える友達をもつことのすばらしさに気付かせ、尊敬と信頼に支えられた友情をはぐくもうとする態度を育てる。
6月	学活	「球技大会を成功させよう」①	1	学級運営委員を中心に、球技大会を成功させるための具体策を考えさせることによって、今後の取組への意欲を高める。
7月	学活	「球技大会を成功させよう」②	1	学級運営委員を中心に、球技大会への取組における課題を焦点化し、その解決方法を考えさせ作戦を練り直させることで、今後の練習の充実を図る。
7月	学校行事	球 技 大 会		
7月	学活	「球技大会への取組を振り返ろう」	1	今回の球技大会への取組を振り返らせることによって、自分たちや学級全体の成長を実感させ、学級への所属感や連帯感を深めさせる。

9 本時の実際

(1) 本時の目標

自作資料「友達」を読み、友達のよさを発見し尊敬することによって、心を許し合える友達をもつことのすばらしさに気付かせ、尊敬と信頼に支えられた友情をはぐくもうとする態度を育てる。

(2) 資料について 「友達」

ア 資料観

自作資料「友達」は、真の友情とは何か、より一層深く強い友情を築くためには何が必要かを考えさせる資料である。

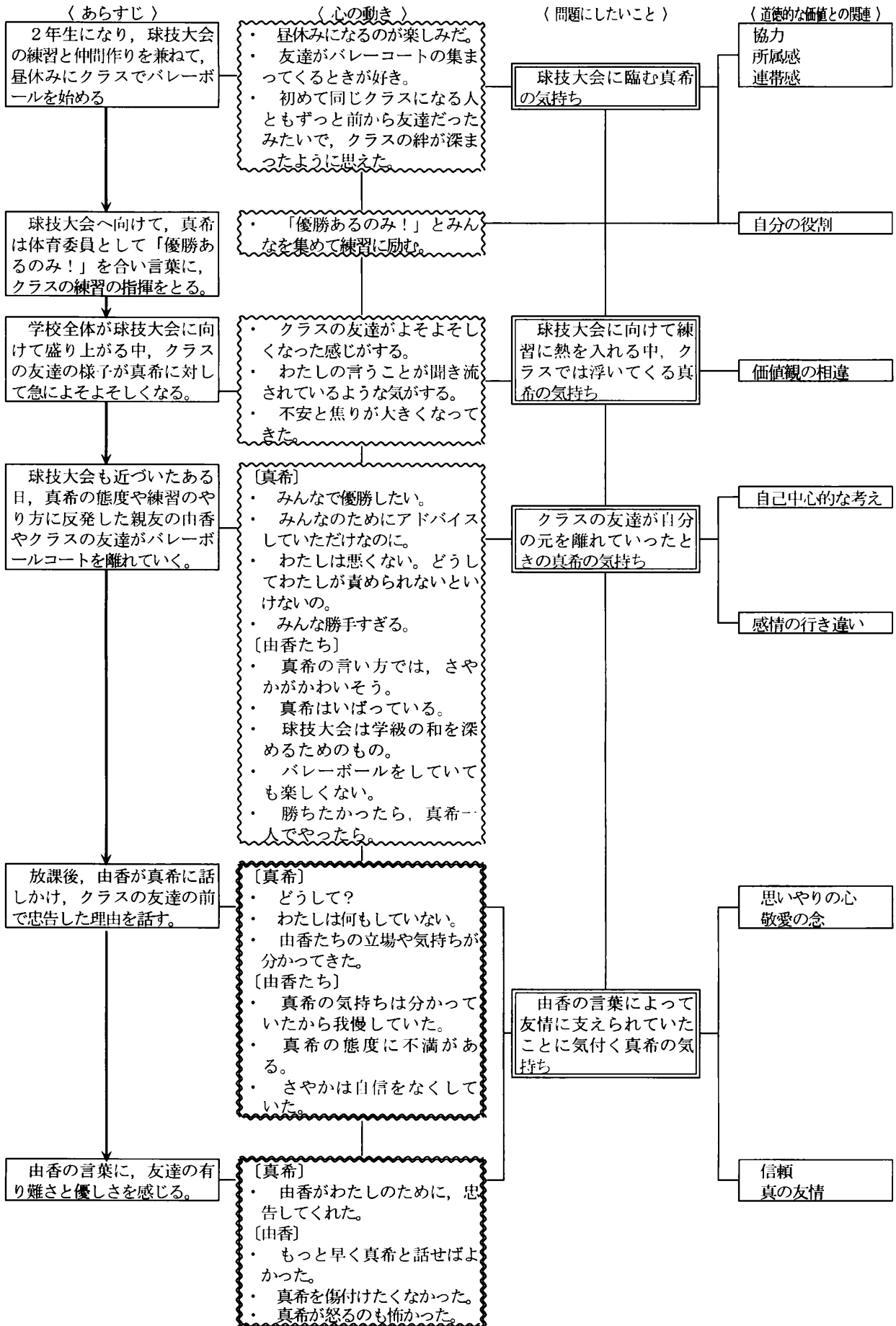
附属中学校で毎年7月に行われる球技大会に向けて、バレーボールが大好きな真希は体育委員として、「優勝あるのみ！」をクラスの合い言葉に、昼休みや放課後の練習を指揮する。しかし、学校全体が球技大会へ盛り上がる中、クラスの雰囲気は真希に対して急によそよそしくなり、親友の由香でさえも視線を合わせようとしなくなる。そうしたある日、バレーボールの練習中に、さやかのサーブが入らなかったことを注意した真希に、由香や他の友達は、「球技大会は学級の和を深めるものでけなされるばかりでは楽しくない。勝ちたかったら、一人でやれば。」と言い、次々に真希の元から離れていく。真希は自分の中で、みんなのためにやったことなのに、なぜ自分が責められるのか、どうして自分のことを分かってくれないのかという思いが高まり、悔し涙を流す。

放課後の帰り道、一人で帰る真希に由香はクラスみんなが真希の思いを分かっていたから今まで我慢してきたこと、さやかが毎日サーブの練習をしていたことなどを話す。真希は由香の言葉から、由香が友達として自分のためを思って忠告してくれたことに気付くとともに、自分が一方的な考えをもっていたことや互いのよさを認めることができなかったことに気付かされる。

真希の「優勝したい」という気持ちとクラスの友達の様子、親友である由香の言葉などから、球技大会へ向けてどのように友達とかかわればよいのか、互いのよさをどう認めればよいのかなどについて生徒は共感をもってとらえることができるであろう。また、親友とはどうあるべきなのか、友情をどのように築けばよいのか深く考えていくことができるであろう。私たちは、多くの人とのかかわりの中で、「友情」という固い絆で結ばれている相手をもつことは、簡単なことではない。それだけ、相互に変わらない信頼と相手に対する敬愛の念をもち、真の友情を築いていくことが難しいということにも気付かせるとともに、その価値についても考えさせたい。

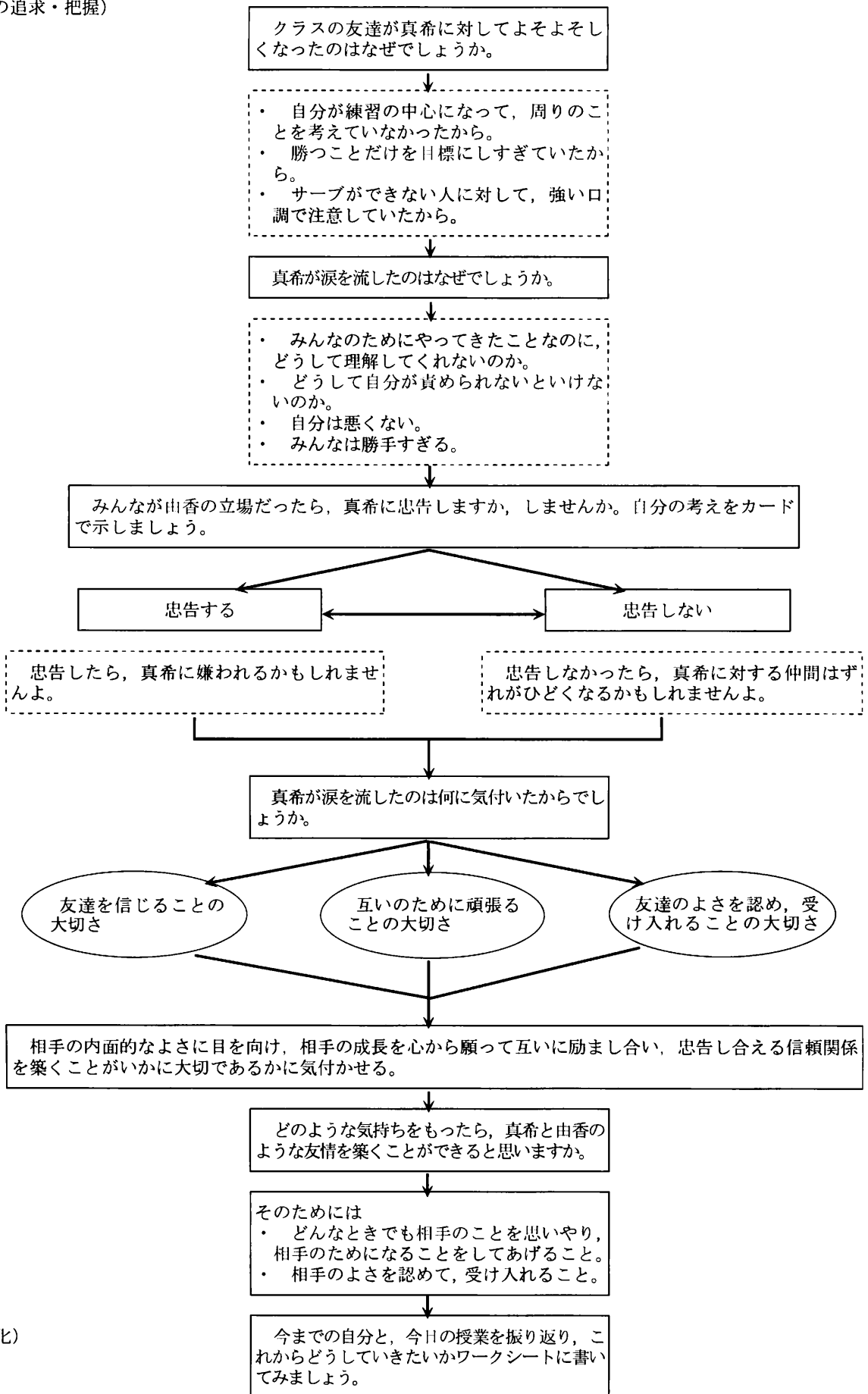
本資料では、心を許し合える友達をもつことのすばらしさ、尊敬と信頼に支えられた「真の友情」をはぐくむことの大切さを訴えている。そこで、間もなく、球技大会への練習が始まる生徒にとって、本資料の内容は共感をもって読むことができると考えた。また、導入部分では、普段の自分が友達とどのようにかかわっているかを振り返らせ、意識付けをすることができるようにしたい。さらに、道徳と学級活動とのユニットを組むことによって、自分の言動が自分にとって都合のよいものであったり、一方的なものであったりしないこと、相手の内面的なよさに目を向け、相手の成長を心から願っていること、互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係を築くことに気付かせ、真の友情とは何かを考えさせたい。

イ 資料の分析



〈発問による授業の構造化〉

(価値の追求・把握)



(自覚化)

(3) 指導過程

○ ワークシートに記入しない発問 ◯ ワークシートに記入させ、じっくり考えさせる発問 ◯ 揺さぶり発問 ◯ 研究の内容

過程	発問・指示	時間	生徒の予想反応	教師の働きかけと留意点	研究との関連
導入	1 球技大会へ向けてバレーボールの練習をしているクラスの様子や雰囲気はどうでしょうか。 ○ 今日は、「真の友情」について考えてみよう。	5	<ul style="list-style-type: none"> 仲良く練習している。 上手に練習できていない。 	<p>〔研究内容2-(1)ア〕</p> <p>球技大会へのクラス練習の様子をビデオや写真を見せることで、客観的に自己をとらえさせる。</p>	<p>〔研究内容2-(1)ア〕</p> <p>【多様な導入の工夫】</p> <p>ビデオや写真の活用など多様な教材を用いて生徒の視覚や聴覚等に訴えかけることによって、課題意識を高めさせる。</p>
	○ 資料(前半)を読み、「友達」について考えさせる。	2		<p>○ 気になったり、話し合ってみたりしたい場面があったら、アンダーラインを引くように指示する。</p>	<p>〔研究内容2-(2)ア〕</p> <p>生徒の実態に応じた副徳本を選定するとともに、生徒が心から感動する魅力的な資料を開発する。</p>
展	2 クラスの友達が真希に対してよそよそしくなったのはなぜでしょうか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 自分が練習の中心になって、周りのことを考えていなかったから。 勝つことだけを目標にしすぎていたから。 サーブができない人に対して強い口調で注意していたから。 	<p>〔研究内容2-(2)ア〕</p> <p>附属中で毎年行われる球技大会を取り上げることで、身近にとらえさせる。</p>	
	3 真希が涙を流したのはなぜでしょうか。	4	<ul style="list-style-type: none"> みんなのためにやってきたことなのに、どうして理解してくれないのか。 どうして自分が責められないといけないのか。 自分は悪くない。 みんなは勝手すぎる。 	<p>○ 真希と周りの友達との考えが違うことから、気持ちのすれ違いが起きたことをおさえる。</p>	<p>〔研究内容2-(2)ア〕</p> <p>自己内対話を活性化させる工夫</p> <p>自己決定を促し、その結果や根拠が他者と対立するような場面を設定する。</p> <p>〔研究内容2-(2)イ〕</p> <p>【討議を活性化させるための工夫】</p> <p>異なる意見や対立した意見を尊重することによって、同質のものだけでは到達し得ない議論の深まりと広がりをもたせようとする。</p>
展	4 みんなが由香の立場だったら、真希に忠告しますか、しませんか。自分の考えをカードで示しましょう。 (ゆさぶり発問例)	13	<p>【忠告する】</p> <ul style="list-style-type: none"> どんなときでも忠告してあげられるのが、友達だから。 真希の一番の友達だから。 <p>【忠告しない】</p> <ul style="list-style-type: none"> 忠告することによって、真希との関係が悪くなり、友達でいれなくなるかもしれないから。 友達だからといっても、自分がみんなとの関係を悪くする方が嫌だから。 	<p>〔研究内容2-(2)ア〕</p> <p>自分だったらどうするか、意思をカードで示させる。また、その理由を書かせる。</p>	
	○ グループで話し合う。 ○ 全体で話し合う。	2		<p>〔研究内容2-(2)イ〕</p> <p>自分の意見をもとに、グループや全体で話し合い、互いの意見や価値観を本音でぶつけ、よりよい新しい価値観を見付けさせる。</p>	
展	○ 資料(後半)を読み、「友達」について考えさせる。	2			
	5 真希が涙を流したのは何に気付いたからでしょうか。	5	<ul style="list-style-type: none"> 由香の思いに気付いたから。 由香が自分のことを信頼してくれていることに気付いたから。 	<p>○ 初めに流した涙とは違う涙の意味を考えさせる。</p>	
展	6 どのような気持ちをもったら、真希と由香のような友情を築くことができると思えますか。	5	<ul style="list-style-type: none"> どんなときでも、友達を信じてあげること。 お互いに信頼していること。 友達のために頑張ること。 友達のよさを認め、受け入れてあげること。 	<p>○ 友情を築き、はぐくむには互いの信頼関係が必要であることに気付かせる。</p> <p>○ ときには、忠告し合えることも信頼関係の一つであることに気付かせる。</p> <p>○ 真希にもよさがあること、クラスのために一生懸命頑張っていたことをおさえる。</p>	<p>〔研究内容2-(3)〕</p> <p>【自己の変容を実感させる工夫】</p> <p>「初めは～だったが、今は～である。」というように、学習前と後の考え方などの変化や学習を通して気付いたことや、理解できたこと、今日の学習を今後どう生かしていきたいかという実践化に向けての意欲等をワークシートに書かせる。</p>
	7 今までの自分と、今日の授業を振り返り、これからどうしていきたいかワークシートに書きましょう。	5	<ul style="list-style-type: none"> どんなときでも相手のことを思いやり、相手のためになることをしてあげること。 相手のよさを認めて、受け入れること。 	<p>〔研究内容2-(3)〕</p> <p>自分の考えの変容を実感させるために、「今までは～だったが、これからは～していきたい」という書き方でまとめさせる。</p>	
終末	中村ミツル著「中村ミツル作品集」(心のノートP46)の話を見せ、黙読させる。	5		<p>○ 心を許し合える友達をもつことのすばらしさに気付かせ、尊敬と信頼に支えられた友情をはぐくもうとする態度をもたせる。</p>	